

「愛する人と家族になりたい」 ～LGBTを取り巻く社会の状況～」



世界では、オランダをはじめとして、同性婚を認める国が2000年代から出てきており、国際的にも性に対する多様な考え方が広がりつつあります。また、国際オリンピック委員会では、いかなる種類の差別も受けることがないとのオリンピック精神にのっとり、2014(平成26)年にオリンピック憲章の差別禁止規定に「性的指向」を追記しています。日本では、会社の福利厚生面で、同性パートナーにも適用した祝い金給付や介護休暇の付与などの対応が広がりつつあります。LGBTの人たちだけでなく、全ての人が愛する人と家族になり、一生添い遂げられる仕組みなどを考えなければならない社会・時代が来ているのではないのでしょうか。



LGBTを取り巻く世界の状況(2017(平成29)年)



- 差別行為を禁止するなどの保護がある国 85か国
- 同性婚やパートナーシップ制度などを承認している国 47か国

※日本でも全国の6市区町村でパートナーシップ制度の取組みがはじまっています。

(出典: 国際レズビアン・ゲイ協会(ILGA)のホームページ)

